

平成28年度第2回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 平成28年10月21日(金)
午前9時30分から午前10時25分まで
- 2 場所 本庁舎「3階会議室」
- 3 出席者
 - (1) 出席構成員
天童市長 山本信治 教育長 相澤一彦
教育委員 井上正信 教育委員 大貫紀代子
教育委員 本田孝之 教育委員 阿部真由美
 - (2) 説明のため出席した者の職氏名
教育次長 中島伸一 学校給食センター所長 東海林明夫
学校教育課長 江川久美子 生涯学習課長 武田文敏
教育総務課課長補佐兼庶務係長 矢萩 茂
 - (3) 事務局職員の職氏名
総務部長 武田 淳 総務課長 森谷倫祥
総務課課長補佐兼行政係長 熊澤 輝
総務課行政係主査 丸子正彦
- 4 議事録署名員
教育長 相澤一彦
- 5 次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 協議・運営事項
 - ア 活力ある学校教育の方向性について
 - イ その他
 - (4) 閉会

6 会議の内容

発言者	発言内容
熊澤課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 相澤教育長あいさつ</p> <p>3 協議・調整事項</p>
山本市長	<p>それでは議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長にお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>はい。</p> <p>(1) 活力ある学校教育の方向性について</p>
山本市長	<p>最初の「活力ある学校教育の方向性について」説明していただきます。</p>
中島教育次長ほか	<p>(活力ある学校教育の方向性について説明)</p>
山本市長	<p>ただ今活力ある学校教育の方向性についての説明がありましたが、皆さんの方から忌憚のない意見をいただきたいと思いますが、どなたかありますか。</p>
本田委員	<p>方向性については今説明があったとおりなのですが、主に天童市で何が特長なのかということの一つ打ち出していくことも必要だと考えております。今後英語が小学校3年生から入ると言われておりますが、それより早く目を向けていくということが、教育の立場としてもいいのかなと考えるところであり、ALTを増やすということを是非ともしていただきたいと思います。これを今中学校でやっていますが、中学校</p>

	<p>に入ってから外国人と英語で話をするとなってくると、もう既にかんりのアレルギーを持っている子どもたちもいるのだらうと思います。なぜそのようなことを言うのかというと、やはり言葉というものは、生活の中で必要性があつて覚えるものだと思います。グローバルな社会にとは言いますが、グローバルな社会に向かつていくには、まずは言葉が分からなかつたら相手と対するということが全くできないわけです。いくら勉強して、英検を受けて、英検の資格を取つても、対面して話すことができなければ話せることにはならないわけです。グローバルというものは、言葉は後で付いてくるには付いてくるのですが、そういう状況、そういう人と会うということがすごく大切なのだと思います。そういう意味でALTを小学校からということは、すごく大事なことだと思います。</p> <p>また、放課後学習みたいなものがあると思うのですが、そういう中で通常の国語、算数、理科の他にも英語だけでしゃべるプログラムを作るとか、英検の話にしても、興味を持った子どもにとっては級を取れたとなると、ますます励みになるのかなと。</p> <p>とにかく色々な場面で英語なり、ICTの機器なりに携われる機会を増やしてあげることがまず大事なのかなと思います。教え方とかも当然あるのですが。今日お話いただいたものを進めていく上で、どんな教え方をしたらいいとか、どんなやり方という案があるわけではないのですが、その体験を通して、天童はこんなにも英語に秀でてるんだとなればすごく誇らしいし、親たちの目も変わって、帰ってきた子どもたちにどんなこと覚えたのか、自分たちの知っていることで子どもに話し掛けたりとか、色々な面で相乗効果が出るのではと思っているところです。</p> <p>今ALTの話がありましたが、大変参考になったと思います。</p> <p>他にどなたかございますか。</p> <p>本田委員が言ったことに補足となりますが、私も色々行つたりすると、天童に行くところこういうふうなんだということが聞こえるので、先ほど本田委員が言った天童市の特長を出</p>
山本市長	
大貫委員	

	<p>すというか、学習面でも天童の学校に行くところなんだというように形が少し見えてくると、色々な人を天童に呼び寄せられるという部分もあるのではないかと思います。医療費に関して天童に行く子どもたちは医療費が掛からないんだという話がやはり聞こえるんですね。そうすると少しずつ天童に人が増える状況になるかと思うので、学習面に関してもこういう部分が天童はすごいんだというような特長をこれから出していきながら、子どもたちの学習の条件を整えていくことがすごく良いことだと本田委員の話を聞きながら思いました。その辺りを少し考えながら、子どもたちのALTを増やすこともそうですけど、色々なことでそういうふうな場面に合った状況を作っていくことがすごく良いことだと思います。</p>
山本市長	<p>他にどなたかございますか。</p>
阿部委員	<p>今のお話を伺って、英語というのは世界共通語になっており、一応英検というのは自分の英語の能力や学力がどのくらいになっているのかという目安にもなるものですので、積極的に取り入れるということは大切なことだと思います。そして、ただの目安ということだけで押さえるのではなくて、日常生活の中で子どもたちの頭が柔らかいうちに生活の中に英語を取り入れるということがとても大切だと改めて感じました。</p> <p>また、先ほど長いスパンを想定した基本方針の内容の話を伺った中で、一番気になったのが、今の子どもたちは今にない職業に就く時代になっているということでした。今の子どもたちは、私たちにも想像が付かないような中で、競争とかそういうものに対してメンタルも強くなっていかなくてはいけないし、協調性も持たなくてはならないと。さらに、今まで以上に大変な時代を担っていかなくてはならない子どもたちに、どれだけサポートできるかという意味では、今教壇に立っている先生方もさらに自分たちの資質を高めていかなくてはならないということで、非常にプレッシャーも多いかと思います。業務が多くて、子どもたちと遊ぶ機会も少なくなったりとか、そういうことで頭を悩ます先生方も実際にいらっしやると思います。こういった施策を進めていく中でも、</p>

	<p>先生方の心の余裕に関しても注意していかなければ、子どもたちの心に余裕がない部分に気付くことができないし、本当に悲しい事件になってしまったという現状もしっかり受け止めた上で、きちっと皆さん方がタッグを組んで進めていかななくてはいけないと改めて感じました。</p> <p>そして、ICT活用についても、子どもたちは新しい、珍しいものに対しては食いつく傾向があるかと思うのですが、実際にそういった興味があるものでも常にあるということが当たり前の環境になってくると、なかなか使わなくなるという傾向もあるかと思います。ICT活用の興味をずっと持続させていくための授業内容というものもきちっと踏まえて活用していくことが、天童に来ればICTをどんな時でも活用して資質を高めていける、そして、得た知識を活用していくことの継続につながっていくかと思うので、そういったたくさんの方々の方々の知恵をどんどん膨らませていけるようにしていければいいと思いました。</p>
山本市長	<p>はい、ありがとうございます。大変参考になる意見だと思います。</p> <p>他にどなたかございますか。</p>
井上委員	<p>英語教育の充実については、私も大事なことだと思います。私も教員でありましたので、その立場から申し上げますと、英語教育については、色々と職場の同僚の話を聞くと、英語教育に力を入れると日本語が駄目になるのではないかという危惧の念があるのだと思います。でも、私も3年間海外に住んでいましたけれども、逆なんです。ね。</p> <p>外国語に興味を示すと逆に日本語を大事にするんですよ。その辺のところをもう少しピーアールすれば、先生方が喰らい付いてくるのではないかと思います。</p> <p>あと、英語教育の充実というのは、単に英語を覚えるということではなくて、やはり国際感覚を身に付けていくということも極めて大事なことになるかと思う。もしかしたらそちらの方が大事なのかもしれませんね。それもやがては国際感覚を身に付けることによって、自分の国を愛する原動力にもなるんです。だから、そういうところをもっとピーアールして、先生方の理解を汲む必要があるのではないかと思います。</p>

	<p>ます。</p> <p>そして、もう一つは、教員というのは、かつて自分が子ども頃担任の先生、一年生の時には一年生の、中学校は中学校の先生から教わったことを頭の中にインプットしていて、それが自分の今の指導の基本となっているんです。ところが、小学校3年生の英語とかは経験していないわけなんです。だから、研修の充実ですね。ALTに頼ることももちろん良いのですが、成功させるにはやはり先生方の資質、英語教育に対する資質を養うことが必要であります。研修の機会を先生方にも与えていただければ、大成功に終わるのではないかと思います。</p>
山本市長	<p>はい、今井上委員からは、自分の教員生活の知見も含めてお話があったと思います。</p> <p>他にどなたかございますか。相澤教育長は、何かございますか。</p>
相澤教育長	<p>全体を通して、大貫委員の発言から考えさせられたことは、市民が目に見える、感じる形できちんと打ち出していくということが非常に重要なのだと。そうすると子どもたちも分かるということとともに、井上委員からもありましたとおり、本質はどこにあるのか、大事なことはどこにあるのかということ色々と判断したいと思っていますところです。本田委員、阿部委員からの意見についても、施策についての方向性について大きな支持を受けたと思っていますところです。こういうことを大事にしながら、天童の教育はやはり魅力があるなというようにしていくことが大事なのではないかなと感じたところです。</p>
山本市長	<p>一通りそれぞれの委員から御意見をいただきましたけれども、私自身も今市長として大変心強く思いました。行政を預かる者として、何かをきちんと市民の皆さんに訴えて、こういう方向でやっていくということをしつかりと打ち出していくことが行政では大事なんですね。あと、教育現場でもそういう部分が非常に大事だと思います。天童市はこういう教育方針の下で子どもたちと接していくというような将来の子どもたちのビジョンをしつかり父兄の皆さんに、市民の皆さん</p>

	<p>にお知らせしていくことが、やはり天童で学んでみたいということにつながっていくと思います。そういう面では、今様々な御意見をいただきましたけれども、教育委員会が主体的になってそういう方向性を作っていくということが大事でありますので、是非お力添えをいただきたいと感じております。</p> <p>教育委員会の方ではそれぞれ予算があらうかとは思いますが、限りある予算の中で特徴のある教育施策を、特に地方創生のスタートでありますから、是非一つやっていただきたいというように思っております。</p> <p>他にどなたかございますか。</p>
大貫委員	<p>学習支援、四中でやっている放課後の教室なんですけれども、前に渋谷区の方で空いた小学校で退職された先生方などが来てくださって、放課後子どもたちがそこに行っても分からなかったことを教えてもらうような放課後学習会をしているということを知ったことがあったんですね。だから、そのような感じで四中の方も始まったのかと思います。市内にそういうところがいっぱいあって、四中だったら英語、一中だったら数学という特徴を持って、そこに行くに興味がある教科を自分なりに別の方向で強化できて、中学校同士で交流しながらできるような場所があってもいいかと思ったのですが、そういう感じにはできないのでしょうか。</p>
山本市長	<p>どうだろう。要するに学校を開放して、その特徴ある学校で学びたい子どもたちは、そこに行って一緒に勉強したらどうですかと。あまり難しくなく、そういう感覚だと思うんですね、今の話は。そんな開放の仕方もあるのではないかということなのですが、参考意見としてお聞きしていただいたと思いますが、何かコメントがあれば。</p>
江川学校教育課長	<p>今年始めた四中の状況について少し。</p> <p>子どもたちが自主的に学習をするためにというには、どういう条件が必要かと考えました。</p> <p>まず一番は、いつも来られるところ。車を持っているわけではないし、それにはまず自分の学校であらうと。</p> <p>そして、そういう授業時間でない時間に主体的に学習する</p>

	<p>となると、部活動を利用しようと。部活動には必ず来るので、その前とか後とか。あと、定期テストがありますね。中間テストとか期末テストとか。その前というのは必死に勉強しようと思うので、ではその直前辺りを使う。子どもが必然的に勉強できる時間帯と場所を考えました。そしたらまず学校だろう。それで部活動の前後。それから、やっぱり友達なんですね。部活動のみんなが「勉強していく。」「宿題していく。」と言うと、それがとても動機付けになって多くの子がその場に参加するという状況でした。だから、それも一つの特徴ではあるかと。</p> <p>そして、今大貫委員がおっしゃったように、数学が習いたい、英語が習いたいと思っていて、そこに行った時に自分が必要なものを教えてもらえるということが必要だと考えたときに、あまり専門性が高い先生が居て、英語の先生がいないというよりは、大学生ですと最近大学受験をしたばかりなので、中学生くらいまでの内容ですと全ての教科にわたって対応できるんですね。そして、年齢も近いので。さらには四中の場合は卒業生を活用して学習サポートに置いたものですから、ある意味ちょっと年代の近い中学生の気持ちも分かるということで、好評でありました。</p> <p>そういうことで今年も運用したのですが、まだ年度の途中なので、後半、冬休み、あと高校受験のちょっと前辺りにも日程を置いて引き続きしていくと聞いております。</p>
山本市長	<p>子どもたちの参加率というか、例えば参加する子とか、そういうところに行く子どもが固定化されているとか、そういう現象はないのですか。</p>
江川学校教育課長	<p>まだ、十分なデータがないのですが、非常に積極的に参加する子が多く、固定化というのは特に聞いておりません。でも、やはり部活動で登校することが一番大きな動機付けというか、必然性を生んでいるということです。</p>
山本市長	<p>今の四中の取組なのですが、教育委員会では一定の効果は出ているという評価をしているというわけですがけれども、そういうことができれば、全ての学校にスタンダードに置く形で作っていくということも当然考えられるわけです。検証力</p>

阿部委員	<p>というのも大事ですので、教育委員会として是非一つ検証の方も十分にやっていただきたいと思います。</p> <p>今の話を聞いて何かございますか。</p> <p>やはり今のお話を伺いますと、一番問題になっているのが時間と場所の問題だと思います。どうしても各学校別でそういうことが行われていくと思うのですが、先ほど部活を理由にした話がありましたが、今回悲しい事故があったことを振り返ると、部活動の中での問題もあったということもあります。運動については、地域総合型のスポーツクラブというものがありますが、そこでは自分の学校だけではなくて、色々な学校の子どもたちが遊びを通した神経系を刺激する運動で共に汗を流しています。自分の学校以外の別の学校の子どもたちとも仲良くなって、街で会ったり、コミュニケーションを取れるようになっていくようです。小さい範囲の社会だけでいじめに悩んでいる子どもたちがいるのであれば、そういった体を動かすことだけじゃなくて、学びの中でも一つの拠点がどこかにあって、色々な学校の子どもたちが時間を調整してそこに来て、別の友達を作りながら学べるという機会がもしできたら、最高だと思います。ただ、それを見守る大人たちがどのようになっていくかということについては、例えば学校の先生方がローテーションで時間を割り当ててやるとか色々あるかと思うのですが。そういうところと学びとっていうものができればいいですね。</p>
山本市長	<p>ありがとうございます。四中でこの事業をやるに当たって、当初相当綿密に計算してスタートしたということが今の学校教育課長の報告から感じられます。まだ一年も経過していないので、これからだと思いますけれども、ICTも含めてしっかりと検証していただきたいと思います。そして、できれば時間を見つけて、この会でそういう教育現場をのぞいてみるというのも大事ですので、事務方の方で機会を作っていただければありがたいと思います。</p> <p>他にございますか。</p>
本田委員	<p>先ほども英検の話があったのですが、天童で英検を受けるところというのは無いんですね。</p>

<p>江川学校教育課 長</p>	<p>大きな会場ではないですね。</p>
<p>本田委員</p>	<p>それで英検を受けるとなると、山形市に行って受けるといった状況があるということを知りました。天童に住んでいる中学生が全員受けるとかというものを特長と出していくって言うっておきながら、天童で受ける場所が無いんだよということになれば話だけになってしまいますので、そういうことも検討していただけたらと思います。当然予算の問題がありますが、是非そんなこともやってみても思ったところでした。</p>
<p>山本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 他にございますか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>(2) その他</p> <p>(特段なし)</p> <p>4 閉会</p>